

	しこくちゅうおうし 四国中央市		〒799-0497 四国中央市三島宮川4丁目6番55号		電話 番号	(0896) 28-6000
	地域 指定	過疎 農振	山振 農工 辺地(1) 特農 県立公園		FAX	(0896) 28-6056 (総務調整課)

<http://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/>

〈沿革〉

昭29. 3.31 新宮村(合体:上山村・新立村)
昭29. 3.31 土居町(合体:長津村・小富士村・燕崎村・
天満村・土居村・関川村)
昭29.11. 1 川之江市(合体【市制施行】:川之江町・
金生町・上分町・金田村・川滝村・妻島村)
昭29.11. 1 伊予三島市(合体【市制施行】:松柏村・
三島町・寒川町・豊岡村・金砂村・富郷村)
平16. 4. 1 市制施行(川之江市・伊予三島市・
土居町・新宮村 合併)

〈市町のあらまし〉

愛媛県の東端部に位置し、東は香川県、北は瀬戸内海に面し、更に南東で徳島県、南は四国山地を介して高知県に接している。
四国縦貫・横断道の結節点として、2つのジャンクションと3つのインターチェンジがあり、四国各県の県庁所在地まで約1時間と、まさに四国の中央、交通の要衝の地といえる。
産業としては、川之江・三島地域の紙・紙加工業、そして土居・新宮地域の第1次産業と大きく分類されるが、製造品出荷額等はおよそ5千億円ほどであり、四国最大規模の工業都市となっている。

〈由来〉

川之江市、伊予三島市、土居町、新宮村の4市町村が合併して誕生した「四国中央市」は、全国からみても新市の位置を地理的にイメージしやすい名称であり、「四国の4県」が接する自治体である。また、エックスハイウェイの結節点に位置し、四国4県の県庁所在地のいずれにもほぼ1時間で結ばれるという好条件にあり、更に四国最大規模の国際貿易港(三島川之江港)を抱え、海上交通の要衝としても期待が高まってきている。
将来、道州制が導入されたときには、これらの好条件を生かし、四国の交流拠点都市として一層の発展をという希望、気概が込められた名称である。

〈庁舎の建設年度〉

建築年度	増 改 築	主な増改築箇所
平30年度		

〈行政組織〉

(令和 6. 4. 1現在)

区 分	名 前	任 期
市 長	しのはら 縁原 みゆ実	令和7. 4.27
副市長	たかはし 高橋 まこと誠	令和7. 6.30

議 会 (令和 6. 11. 29現在)

議長	山川 和孝	副議長	眞鍋 利憲
議員	(条例定数) 22人		
	(現 員) 22人		
任期	令和10.11.27		

職員数 (令和 6. 4. 1現在)

普通会計	781人
企業会計	54人
その他会計	56人
計	891人

〈人口・世帯数〉

()は増減率

区 分	平7国調	平12国調	平17国調	平22国調	平27国調	令2国調	令 6. 1. 1住基
人 口	(△1.6%) 95,658	(△1.4%) 94,326	(△1.6%) 92,854	(△2.9%) 90,187	(△3.1%) 87,413	(△5.3%) 82,754	82,202
男	46,465	45,683	45,013	43,659	42,596	40,468	40,363
女	49,193	48,643	47,841	46,528	44,817	42,286	41,839
世帯数	31,540	32,957	34,419	34,951	34,999	35,738	38,785

年齢構成（令2国調）

区 分	14歳以下	15歳以上64歳以下	65歳以上
人 口	8,843 人	42,207 人	26,658 人
構成比	10.7 %	51.0 %	32.2 %

選挙人名簿
登録者数（令和6.9.1現在）

男	34,038 人
女	35,504 人
計	69,542 人

〈土地利用〉

（令和2.2.1現在）（ha. %）

総 面 積 令6.7.1 (km ²)	林 野 面 積	林 野 率		経営耕地面積			宅 地 化 率 令5.1.1
				田	畑	樹園地	
421.24	33,045	78.4	976	742	114	119	10.0

〈産 業〉産業構造

（百万円・人）

区 分	総生産額(令3年度)		就業人口(令2国調)	
第1次	3,129	0.7 %	1,371	3.6 %
第2次	245,687	53.1 %	14,854	39.3 %
第3次	213,484	46.2 %	21,579	57.1 %
計	462,300	100.0 %	37,804	100.0 %

（注）「総生産額」の計欄は帰属利子の控除等を行っており、「就業人口」の計欄は分類不能の人数を含む。

主要製造業（令3年）

（百万円）

品 名	製造品出荷額等
パルプ	500,275
プラスチック	43,620

所得（令3年度）

1人当たり 市町民所得	2,952 千円
----------------	----------

令和5年度の主な建設事業

（百万円）

事 業 名	事 業 費
クリーンセンター整備事業	440
小学校施設整備事業	308
道路メンテナンス事業	252
体育施設整備事業	235
市単道路改良事業	222
社会資本整備総合交付金事業	206
塩谷・小山線街路改築事業	188
放課後児童健全育成施設整備事業	184
公園整備事業	169
情報システム構築事業	143

今後の主な建設事業

（百万円）

事 業 名	事 業 費
小中学校屋外運動場空調設備整備事業	－
小中学校施設照明LED化推進事業	－
北地区交流センター（仮称）整備事業	－
体育施設整備事業	－
市単道路改良事業	－
土居文化会館整備事業	－
介護施設等基盤整備事業	－
放課後児童健全育成施設整備事業	－
小規模水道施設更新整備事業	－
交通安全施設整備事業	－

〈観光・レクリエーション〉

名勝旧跡 観光施設	三角寺(四国65番札所) 真鍋家(国重要文化財) 向山古墳(国指定文化財) 東宮山古墳 城山公園 紙のまち資料館 翠波高原 金砂湖畔公園 法皇スカイライン 富郷溪谷 富郷ダム てらの湖畔広場 三島公園 具定展望台 新長谷寺 下柏の大柏(天然記念物) 塩塚高原 旧土佐街道 椋尾山 新宮ダム 森と湖畔の公園 寒川豊岡海浜公園ふれあいビーチ 霧の森 霧の高原 すすきヶ原入野 公園(桜の名所) ニッ岳 赤星山 東赤石山 大楠(大川) 運(西福寺) 奥之院仙龍寺 霧の森交湯～館
祭 り 催 し 物	桜まつり(4月上旬) 菜の花まつり(4月中旬) お茶まつり(6月上旬) あじさいまつり(6月中旬～下旬) 土居夏まつり(8月15日) かわのえ夏まつり花火大会(7月中旬土曜日) みなと祭(7月23日～25日) 紙まつり(7月最終土・日曜日) 湖水まつり(8月上旬) てらの金砂湖畔広場 夏の感謝祭(8月下旬) 鐘踊り(8月24日) コスモス祭(8月下旬) 土居のいもたき(9月～10月) 秋まつり(10月13日～15日・10月20日～23日) 霧の森 秋の収穫祭(11月上旬) てらの金砂湖畔広場 秋の感謝祭(11月上旬) 四国中央スカイラン(11月上旬)
公 営 宿泊施設	霧の森コテージ7棟 霧の高原コテージ4棟(4月～10月)

〈名物・特産品〉

紙加工品 水引細工 手すき和紙 煮干しいこ えびちくわ 里芋 つぐね芋 赤石五葉松 みかん
茶 霧の森大福

〈主な公共施設〉

紙のまち資料館 川之江城 歴史考古博物館高原ミュージアム 市民文化ホール 文化センター 文化会館 暁雨館
福祉会館 保健センター 図書館 農村環境改善センター 運動公園 市民体育館 市民プール 野球場 テニスセンター
スカイフィールド富郷 浜公園多目的広場 三島公園 森と湖畔の公園 新田公園 やまじ風公園 大地山公園
すすきヶ原入野公園 関川河川敷公園 老人福祉センター クリーンセンター 国保診療所 少年自然の家 老人憩いの家
消防防災センター 霧の森交湯～館 霧の森 霧の高原 子ども若者発達支援センター 川之江ふれあい交流センター

〈主要課題〉

1. 環境資源を未来へ残すまちづくり
(自然環境とまちの緑の保全、良質な水の安定的な確保、快適な生活環境の実現、脱炭素と循環型社会の形成)
2. 活力と魅力を創るまちづくり
(産業集積による経済の成長、雇用環境と人材育成の充実、農林水産業の持続的な発展、魅力とにぎわいのある商
業の振興、地域の魅力を活かす観光・物産の振興)
3. にぎわいと定住を支えるまちづくり
(未来につながる都市整備の推進、円滑な交流基盤の整備と交通環境の充実、安全で快適な定住環境の整備、防
災・減災対策の強化、生活安全対策の推進)
4. 生涯安心して暮らせるまちづくり
(地域共生社会の実現、健康づくりの推進と医療の充実、温かな子育て支援、健やかな子育ての応援、安心で充実
した高齢期の応援、ともに生きるまちづくり)
5. 未来を拓く人を育むまちづくり
(人権文化の醸成、未来を拓く子どもたちを育成する学校教育の推進、安全・安心に学べる学校づくり、地域文化
の継承と創造、生涯学習による人づくり・まちづくり、スポーツの推進)
6. ともに築く持続可能なまちづくり
(市民自治の促進、協働によるまちづくりの推進、健全な行財政運営の推進、ICTの利活用と親しまれる市役所づ
くり、シティプロモーション戦略の推進、人口減少・少子化対策の推進)

〈地域づくりの事業等〉

- 新宮地域にある観光施設「霧の森」は、天然温泉を備えた研修施設「霧の森交湯～館」の併設や平成22年度の道
の駅としての登録などにより、充実が図られており、キャンプ施設「霧の高原」とともに地域の産業振興と雇用促進
の場としても重要な施設となっている。これらの施設の更なる有効活用により、都市と農村との交流促進による交流
人口の増加を図っていく。
- 土居地域の「いもたき」は毎年9月～10月の約1ヶ月間、関川河川敷(ふるさと広場)で行われており好評を得ている。
- 平成22年に映画化(書道ガールズ!! ～わたしたちの甲子園～)され、参加者が全国へ広がりをみせている「書道パ
フォーマンス甲子園」を、毎年7月下旬～8月上旬頃に当市で開催することで、日本一の紙のまち四国中央市を全国
に発信し、書を通じた新文化の創造発展及び地域の活性化を図る。
- 「紙のまちの子育て応援」として、地元紙おむつメーカーとの協働により1歳未満の子がいる家庭に紙おむつを
無償で提供する事業を実施しており好評を博している。紙製品の地産地消により地場産業の活性化につながると
ともに子どもを産み育てたくなるまちづくりを推進していく。
- 公民館単位の地区住民が、それぞれの地域が抱える課題について、住民自ら解決策を考え行動することにより、住
民同士の絆の再生、地域力の強化を図るため、平成26年度から「地域コミュニティ活性化事業」を実施している。

〈総合計画〉

〈行政機構〉※第1部末尾参照

(令和 6.4.1現在)

